

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立西与賀小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査(国語、算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

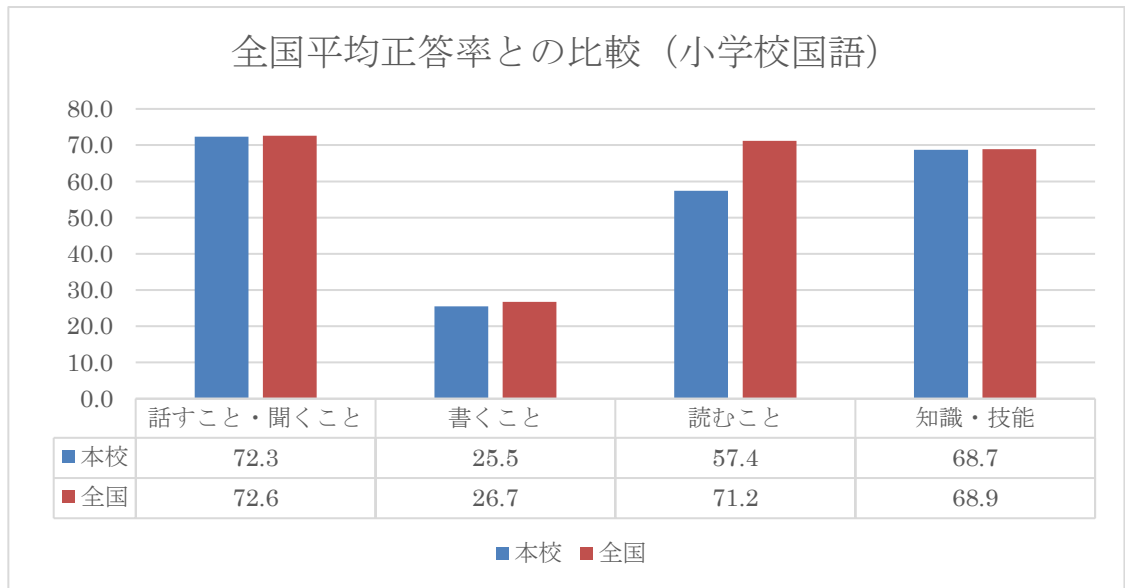
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

#### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

ほぼ全国平均正答率と同等の結果でしたが、「読むこと」は、全国平均正答率を下回っています。また、無解答率を見ると、「読むこと」で全国平均よりも高くなっています。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が全国平均と同等でしたが、「漢字を文の中で正しく使う」「敬語を理解している」は全国平均を大きく上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段からの漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、記述式問題の正答率を上げることです。正答率 46.1%は、全国平均正答率 51.1%を下回っており、苦手になっている児童が多くいます。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

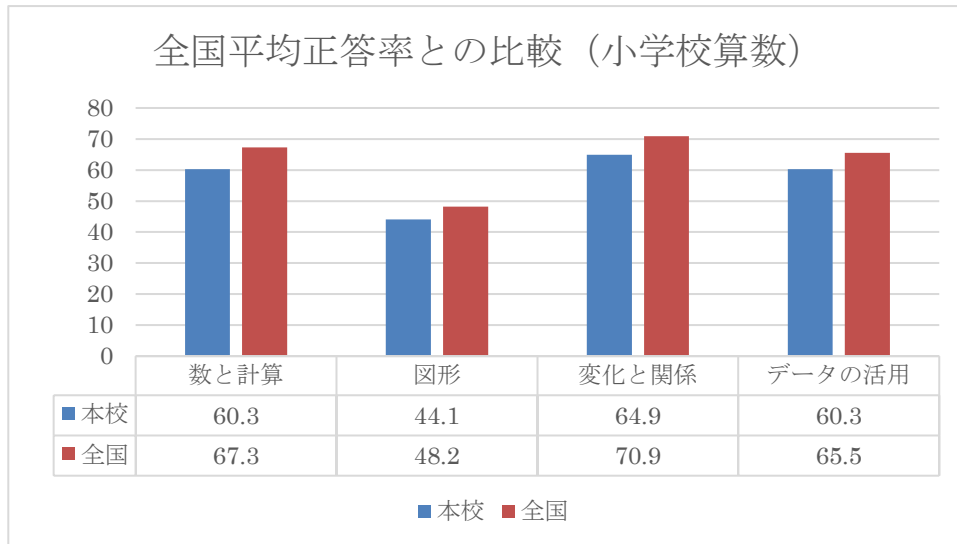
##### 【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- 授業場面でインタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を設定します。

##### 【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科等の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましょ。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな分野の本を読み、様々な表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や書店へ定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

## 2 算数



### (1) 結果

4つの領域において全国平均正答率を上回る問題もありましたが、全ての領域で全国平均をやや下回っています。「数と計算」領域では、全国平均との差が一番大きいです。また、無解答率を見ると、問題形式の「記述式」で全国平均より高くなっています。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「数と計算」領域の、( ) を用いた式や、加法と乗法の混合した式の問題が全国平均を上回っており、基礎基本の力が付いてきていることが言えます。一方、(2位数) ÷ (1位数) の筆算について商の意味を考える問題は全国平均を下回っており、計算の説明に苦手意識があることが言えます。また、「図形」領域では、三角形の面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る問題の正答率が低い結果となりました。(本校21.3%, 全国20.8%)

今後、図形の観察や操作活動などを通して、図形の意味や性質を考えたり、計算式について、手順よく言葉を用いたりして、筋道立てて説明できるようにすることが重要であると捉えています。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自他の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。今年からスタートした「にっしー検定」でも引き続き学力の向上を目指して力を入れます。

#### 【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。特に、四則計算については、繰り返し練習していくことが大切です。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」「時刻を尋ね、何分後？」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童の割合。

#### 《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	87.5%	83.7%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	39.6%	38.1%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	45.8%	55.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	22.9%	42.6%
将来の夢や目標を持っていますか。	64.6%	60.8%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	72.9%	75.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	79.2%	82.6%

朝食・就寝は全国平均を上回り、起床は全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

自己肯定感や規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも低い結果が出ています。学校では、学習や生活の場面で、子供に番や役割を与えているか定期的にチェックし、まんべんなく活躍の場を準備するようにし、成し遂げたことを給食の時間に「ほめほめタイム」として紹介し、自己肯定感や自己効力感を高めていきます。

#### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	16.7%	28.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	4.2%	11.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	6.3%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	12.5%	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	45.8%	26.9%
「30分より少ない」	29.2%	11.4%
「全くしない」	2.1%	4.6%

家庭学習については全国平均を下回っています。1時間未満の児童が7割を超えています。中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習が習慣化するように「家庭学習の手引き」をもとに家庭学習の意味を引き続き伝えていきます。また、小中連携での取組の一つである「家庭学習（自学がんばり）強化週間」を積極的に活用し、家庭学習の充実を図っていきます。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 学校からは、学習習慣を身に付けられるように毎日学年に応じた「宿題」を出しています。あわせて、各学年の家庭学習時間の目安を示しています。自主学習（自学）についても中学年以上で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。
- 始業前（8：05～8：15）の朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベント（「図書館まつり」）をしたり、「あしこの読み語り」による読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が現れてきているので、これからも継続していきます。

##### 【ご家庭では】

- 家庭学習の習慣に向けて、「学ぶ雰囲気をつくる」「生活のリズムを整える」「小さながんばりをほめる」「家庭の対話を大切にする」この4つをぜひ、ご家庭でも心がけてください。4月の家庭訪問で担任からお渡しした佐賀県教育委員会「家庭学習の手引き」にも多くのポイントが記載されています。この「手引き」については、本校ホームページにも掲載しておりますので、ぜひご参照ください。